多少水分

ŀ

香氣ト

ヲ有ス

jν

果實

ハ往々落果セズシテ木

乃伊狀トナッテ樹上ニ存スルヲ見ル

所管トナッテヰル

ŀ

帯ハ不落性デアル 形 培ノ日本梨ニ差異 ŀ 漸尖ヲ呈 ナナリ ショナ 帯赤褐色デ 果面 . ≥⁄ 成 ୬ テ鋭 孰 ハ 常 ス 枝 ŋ 他 表面 ŊŸ Ŀ 果肉 ナイ 種 や扁 濃 銳 3 ŋ カラ記載ヲ略シ 綠 イ針 ハ頗ル堅ク粗ライ石細胞ニ富ム、 ヲ帯 モ 圓 粗糙 形 枝 ショ有 トナル直徑三「セン ビテ光澤ガ デアリ、 ス jν タヾ花梗上及ビ幼葉面 果梗 アリ裏面 葉 ハ 普通 ハ凡ソ四十五 チ」内外ヲ 「ハ淡色 梨ニ 似 ヲ 味ハ酸澁 テ 一普通 帶 殆 ミメ」ノ長サヲ有 ノ綿毛 F. ١, 葉緣 <u>۱</u> 同 ス デ到底食スルニ堪 ル ハ比較的僅少ナ ニハ 觀 幼果ハ 銳 r 1 3/ 細 V 梗窪 帯綠褐色デ成熟ス 鋸 ١٠ 齒 多 ヘナイ ハ ŋ ヲ具フル ア附記 淺ク又帯窪 廣 披披 (過熟シ スル 形 花部 ヲ 七淺 レ Ť レバ黄褐 果實 タ ハ總 3 Æ 力 葉 テ **≥**⁄ 先 色 栽 テ 球

雜誌 ド 該梨ハ野生 ŀ 上 雖 園 モ モ 一藝之友 種 野 山 全型 林 野 內 李卜 生狀態 ŀ ノ表紙ニ = 等 ア 等 3 jν **≥**⁄ 'n ク悉ク有蒂果ノミデ樹勢 1 æ 開花 果樹ニ就テ小生先年以來園藝的利用 出テ居ル , 林端 1 割ニ結實 = アル カラ御參考ニ モ ノ或ハ ハ 少ナイ蓋シ霜害ノ 供 い頗ル 溪谷ニアル サレタイ 張ク 病蟲害ニ モノナド タメカ然ラザレバ結果養分ノ不足ナ 序デニ記 試 験ヲ 對 ハ少數乍 シ ス ス テ ルガ我地 jν 居ル 抵抗モ亦强 ラモ ガ其結果 梨卜 結實スル、 才 云フモ ハ 別ニ記 該野 ノハ果形ニ大小ア 全型 載スルデア 1 デ r / 寫生圖 ラ ウ ラウ ŋ ケ

## 東京白金ノ舊火藥製造所地內ノとらのをすずかけトはまくさぎ

野

牧

富 太 郞

(大正七年七月)

jν 敷地 ガアッテ今ハ宮內省

ŀ

稱

ス

侯

フ下屋

隅ニ金比羅神社モ祭ッテアッタト云フ事デアル、此構内ハ今デモ尙樹木ガ多ク(明治初年ニ大木ハ伐テ賣リ 思フガ其移管ノ前ハ海軍省ノモノデアッタ、 此處ハ原ト 讃州 松平 敷デアッテ其 東京市芝區白金臺町ニ約ソ八萬坪程モアル舊火藥製造所卽チ通常舊火藥庫跡

東京白金ノ舊火薬製造所地内ノとらのをすゞかけトはまくさぎ

Ħ ヺ , モ , Æ 大 ŋ テ

東京白金ノ舊火薬製造所地内ノ

とらのをすいかけト

はまくさぎ

此近傍 づら科 此地 實ニ 森 Botryopleuron axillare HEMSL.) カー ガ此東京市 イ アル 之 = 濕 ンナ狀態ヲ呈シテヰル、此とらのをすずかけモ 地 々ト繁茂シ 東京 內 幸 當時海軍省デ v 地 ヲ デ ŀ = ノ Premna microphylla Turcz.) カアル 1 テ 聞 п ヲ Æ 有ッ寶 得ラレ 成 地 Æ 中 一面 , デ 宮內省 ィ 方ニ 得ラ テ = **≥**⁄ 丰 在 テ n ガ **, ワ**ザ ナ あし ハ無論百年 丰 チ元トハ多分母庭デアッタラシ V ガ ノーツデア jν jν 此 Á, 其 ノヲ jν ナイ 所 ノハ今日デハ絶 場處 管 ヮ ザ ガ 見ル 叢生 ŀ 此意味カラ私 1 此 栽 云フ デ 地內 Æ , ラ**ネ** 一餘モ 其 ŀ アッテ Z **୬**⁄ 7 ·實ニ復 其縁リニやなぎノ木 v タ デ ヲ 车 バ ŀ 事 敷ヲ經 心對的ニ 其林 聊 然 相 面ニ繁殖 ナラヌ若シ , = 事デア 當 力安心 力 ヌ 關 此 中 Æ ŀ **୬** 年 今日 處 得 極 テ種 タ = 所 jν ガ シ ガ メテ珍ラシ L ₹/ テキ 依然 タキ 萬一ニモ此處 東京 幹ノ ガ私 其傾倒セル莖端ハ更ニ新株ヲ作ッテ其長莖 Þ ひのきノ 又其附近ニ不思議ニモとらのをすずかけ ク 今雑樹 はまくさぎモ元來關東方面 經 jν タル 佳 事情 低 ガ見エル、 ノ市中ニ ハ十餘年前ニ其處ニ行 タ 處 ŀ オ ィ 處 デアル、 舊態ノマ デ ハイフモ 大木ガ列ヲ成 ヲ ノ茂ッタ 事デ此處 7 其當 能ク識ッテ 居ッ ガ破 見ル デモ尚 此やなぎハ其材ヲ 時 東京ハ ノノ 壤 ŀ ` 低小 處ニ可ナリ太イ一本ノ ・デ保存 マセラレ ハ 枝 然シ 何 彼ノ大震災カラ が枯 シテ茂ッテヰ 扨テ置イ ン Ź, 世ノ タ ŀ イタ レズ セ ラ地 ナラバ最早再ビ 7 ラ 中 Ī 此 = 時其界隈 V 今 /火薬ノ テ此 出テ = 稀 う事 ノ様ナ樹林 ン 一
ハ
無 有 事 jν 頗 ハ中々 郊 æ 處 丰 すぎ祈 jν 事デ 外 原料 イ 発レ依然 モ jν 亡住 者デ共 縱 デ きみ はまく

なぎ ア (ごまのはぐさ ッ キ マトニ 油 テ 此 ハ Æ ŀ 7 ン ンナ 此 多 斷 止 ナ **≥**⁄ デ ノ大木 イ景致 居っ テ 叉水 , ィ ŀ 暖地 場面 シテ樹 縱 用 出 ナ 力 ナ イ 模 タ 丰 來 1 (くま 樣  $\mathcal{F}$ 1 **୬**⁄ ヌ ガ 1 此 ガ 產 場處 老人 頗 今 處 Æ 木 jν デ n 低 樹 ガ

卽チ其處デ 殊ニとらのをすずかけいはまくさぎョリ 其南面シテ大洋ヲ控ヘタ土佐 ノ ハ 海岸附近ノ Æ ット暖カイ地方ノ産デ 地デ往々其レ ガ 蓋 見 3 ラ Ш 國 n ガ其生育界 ` ガ 北 面 3 ラ最 タ 州 北 限 デ デ Æ ァ 極 ラ テ

デ ガ

其地

內 ガ

名物トシテ之レ

ヲ擁護シ置

7

必要ヲ認

私 自由

玆

如

上

理

由 テ

力 丰

ラ

謹

其

言ッ 謂

テ テ

モ

途

イ、蓋シ右ノ様ナ事實ガアッ

ヌ

ゥ

ŀ

ガ

日

""

タ

ŀ

シテモ兎ニ

角東京ニ

ハ

珍

ラ +

**୬**⁄

イ

此二

植

物 ıν

ガ

其

處

榮

エ

n

jν

久

**≥**⁄

イ間此

寒

イ江戸東京ノ

氣候

= Æ

抗シ

能 庭

ク

ヲ

御覽ゼラレ

テ

其

ンナ珍ラ

୬

ィ

1

ナ

ラ テ

栽

ラ

珍 ッ テ

品 タ 見

**≥** 

ァ

之

V

ヲ

チ

來 時

タ 彼

歟

或 ガ

取

IJ

寄 讃 詣 持

セ 岐

力 シ

鳩

溪

源 其

內 V ガ テ

ガ

鄉

國

ッ ガ V

ラ ガ

, ウ ナ 7

此ンナ處ニ此二ツ

ノ暖

地

植

物 ゙ヺ

> 生 今



之

レ

=

逢着

ス

jν

事.

ガ

r

デ

r

n

先

年

私

其

地

力

ラ

本

ヲ

見

**≥**⁄

タ

記

卉

n

(牧野寫生)

品

**≥**⁄

テ 觀 别

**≥**⁄

タ

モ デ

モ

ク

モ

ラ 格 因

タ ダ

ラ ガ ク

面

ァ

ッ

暌 Ŀ

敢

テ

サ

ウラ云

フ E 地 は

事

Æ V

ナ

ŋ テ

假

令 ナ

植

原

基 上

其

其

=

美麗

デ

æ

庫

跡

在

事.

如

のをすずか

V 憶

ŀ

まく

さ

さ

さ

さ

さ

さ

さ

さ

さ

れ

ッ

ガ

處

= ŀ 力

見

出

ス

事 大

> **୬**⁄ モ オ

ゥ

**୬**⁄ ナ

Z イ

Æ ヲ Æ

j 斯

乎

私 此

今之

Ŧ

セ

爲 ١, デ

玆

私

ヺ

ïν

卽 決

チ

۷١

彼

學

Æ

造

とらのをすずかけ (Botryopleuron axillare Hemsl.)

活 云 H テ 存 フ 7 オ 經緯 在 デ ケ ハ 枯 てな事 先 ヺ タ V 有 ヅ ズ 歟 上 = デ ッ 3/ 此 生 其 テ 述 處 其 \* 植 延 V 物 タ 活 ヲ F. 樣 我 = タ 若 モ 3/ ガ 殿 推 **୬**⁄ 其 樣 萬 ダ 3/ 攷 ガ 松 サ 今 平 ゥ H デ 侯 ナ IJ 全 傳ッ 7 獻 1 Ŀ. ŀ タ 云 Æ 奇 殿 フ デ 反

學

名ハ始メ Cnicus dipsacolepis Maxim. トシテ發

Tanakae Franch. et Sav.

此ごばうあざみハ

我邦

は

ッ 事

=

セ

ヌ

●かなめぞつね

デデ

其

明

治 ナリハ 來

初年頃

・手ノ

俗

稱デアッタ

トノ事デアルガ多分今日デハ最早ヤ 其稱呼ハ旣ニ廢

かなめぞつね、あみがさたけ (Morchella esculenta

思

叉其名ハドウ 東京山 力

イフ意味ダカ

私

ガ

ッ

テ

鹽ヲ抹シ焼テ食へバ美味ナリ

ŀ

謂

ハレテヰ

創

×

jν

アガ出

*γ*ν

不景氣

風

ノ吹キ荒サ

メル失業

モ是レデアル、

此あざみ

斷 枝 片 葉 (其五十四)

者 ナ jν 宫内 省二 向フテ建言シ Þ

## 枝 片 葉

## (其五十四

野 富 太 鄎

トナッテ今ハ此レガ用ヰラレテヰ ノ和名トシテ上ノごばらあざみガ用ヰラレテア 薊中其根ガ一番能ク牛蒡ニ似タ者デ採テ食用 フラン ୬ ж. Ţ サ ゥ チエ トス 兩氏合著ノ日本植物總目錄ニCnicus v ۱., ルニモ モ其レハ 番上等デアル、 全ク其適用ヲ誤ッテヰ 其特點

附ケラレタガ 畢竟其レハ不 用ナ名トナッタ何トナレバ其前 旣ニ此クごばうあざみノ 佳名ガアッタカラデアル、

表セラレタモノデアルガ

後二

Cirsium dipsacolepis

、是レヨリズット後ニナッテ松村任三博士ガ

**≥**⁄

モノデ明治初

年二旣ニ

此名ヲ呼ン

デヰタガ其レハ

田中芳男先生ガ

之レニもりあざみ 叉ハやぶあざみノ和名ヲ

サウ名ケタモノデアル

蓋シ此名ハ此あざみニ對シテ最初ニ下サレ

〇 ごばうあざみ

どばらあざみ、牛蒡薊

ノ意デ其根地中ニ直下シ

宛

モ

牛蒡ノ如

ケレ

/\<sup>N</sup>

此

名

ラ得

タノデ

7

ヲ狙ッテ之レヲ味噌漬トシ世ニ賣リ出シタノガ濃州岩村町ノ名物菊牛蒡デアル、 ハ廣ク我邦ニ分布シテ生ジテヰル ノ世ノ中ダチットハ此 カラ心アルモノ其レ ンナ方面 ラ利用 叉出雲 三瓶山ノ名物三瓶牛蒡 Æ スレ 心ヲ向、 何處デモ ケ タラ 或ハ 名物 なり ラ造

ニハ分ラヌガ頗ル耳ニ奇拔 ひやしんすノ日本 シニ聞ユ jν 渡來 此菌

جُ

ニハ差ャ玉